

代官山MEDICAL 卒業生の勉強法 ③



●丹治芳明君による物理の学習の進め方

東京慈恵会医科大学3年 丹治芳明君

Physics

1. 4月の物理の学力状況

現役生のとき、数学、化学、物理は得点源になると考えていた。しかし、実際の入試では1問1問に時間がかかってしまい、思うように得点できなかった。自分で問題を演習する場合と入試本番では精神状態が大きく異なり、計算を進めるうちに自分の答案に自信をなくし、何度も見直すことで時間不足になってしまうということや、また、一度解いたことのある問題の類題は解くことが出来るが、より発展的な内容を聞かれると解ききれないということが何度もあった。入試で多くの得点を取り、他の受験者と差をつけるためには、時間内に、発展問題を含め多くの問題しっかりと解ききる力が必要である。よって、浪人生になってから入試本番までに、より幅広い種類の多くの問題を解き、苦手と思うような問題をなくし、1回で正答を導く力を養うことを目標とした。

2. 代官山MEDICALの授業に対する取り組み方

毎回の授業の予習には特に力を入れた。まず、予習として出された問題を1題につき約15分程度の制限時間を設けて、時間内に解ききる。終わらなかつたら時間を延長して解ききり、わからなくても粘ってみる。もし時間内に解き終わらなければ理由(たとえば公式を思い出せなかったとか計算を何度も間違えたとか)を考へてみる。そして、授業中に解説を聞き、自分では出来たつもりでも答えが違い、解説を聞いても納得できなければ自分の解答を先生に見せ、添削してもらい、ということを繰り返してやっていた。自分で制限時間を設定することで、問題を解きながら時間を意識できるようになった。また、自分の解答を何度も添削してもらい、間違えやすいポイントがわかっていった。

3. 学習に使った教材

①代官山MEDICALのテキスト、先生方のプリント

医学部の入試問題が多く載っているため、本番を意識して予習ができる。また、どのようにして短時間で1題を解くかを身につけることにとても役立った。先生方が医学部入試を解く上で必要だと思う問題が載っているプリントを解くことで差がつくような難しい問題を多く解くことができた。

②実戦 物理Ⅰ・Ⅱ重要問題集

入試におけるスタンダードな問題が数多く載っているため、前期の間使用し、苦手な問題をなくすことに大いに役立った。解けない問題をなくすことで安定して得点できるようになった。入試問題の基礎となるような問題が確実に解けるようになった。

③物理Ⅰ・Ⅱ標準問題精講

医学部ではない大学の難解な問題が多く載っているため、より深い知識や問題を演習することができた。わからない問題は先生に質問に行った。基礎がしっかりと定着してから演習問題として使用した。

④難関大突破 究める物理Ⅰ・Ⅱ(中経出版)

入試直前に、他の受験生と差がつきそうな問題を演習するために使用した。内容はとても難しく、中から数問ピックアップしてその問題を何度も解いた。先生方にそれらの問題の詳しい解説をしていただいたり、類題のプリントをもらったりした。

⑤赤本(教学社)

初見の難しい問題を、いかにわかりやすい問題に共通させて時間内に解ききるのかという練習のために使用した。主に、東京慈恵会医科大学、日本医科大学、北海道大学、東北大学などの入試問題を用いた。

4. まとめ

約15分という限られた時間内に大問1つを解ききらなければならないため、問題を見ただけで大方の解答方針を立てる必要があるため、より幅広い種類の問題を解いた方がいいと考えられる。私自身も、他の受験者に負けにくいという問題量をこなし、全範囲を安定して解ききることでできる実力をつけることができた。典型問題でミスをなくし、苦手分野をなくすことで、さらに安定した点数がとれると思う。物理を得点源にするためには、医学部特有の問題の癖に慣れ、難問もある程度解くことのできる実力が必要である。